



消えた街角:富岡畦草・記録の目シリーズ

昭和39年「お堀端の帝劇、東京会館」



JR有楽町駅、地下鉄日比谷駅より徒歩1分、日比谷公園の前に位置している帝國劇場は、日本の財界人が欧米諸国同等の大劇場を造りたいという願いから誕生。約1世紀にわたって、現代劇はもちろんミュージカル、オペラ、バレエなどあらゆるジャンルの演劇を上演し、日本の商業演劇を支えてきた。写真には、東京都の指定鳥である「ユリカモメ:別名 都鳥(みやこどり)」が劇場屋上に群がっている様子を記録した。いつまでも彼らたちの休息の場になる自然環境を最低限残しておくことが、次世代を生きる我々の課題といえるだろう。
(平成13年1月12日撮影)

終戦とともに「帝国」を冠した称号が、改変もしくは消滅した。その中で帝国ホテル、帝国劇場、帝国製麻、帝国銀行などは、残った数少ない例であろう。帝銀は、昭和二十九年に三井銀行として復活合併、帝国製麻も今はない。ここに写っている帝劇も、昭和三十九年に惜しまれつつ、建替えを理由に休館を余儀なくされた。日本最初の西洋式劇場として明治四十四年(1911年)開場以来、演劇界に新風を送り続け、昭和三十年正月の「シネマ本邦初公開」が強烈な印象として残っている。新館が完成したのは、昭和四十九年九月のこと。

東京会館は、大正九年(1920年)創業という歴史を持つ。占領時代は、GHQ本部職員 の宿舎として接収されたが、昭和四十六年に新ビルに建て替えられた。明治三十六年に開通した市街鉄道後の都電は昭和四十三年に全面廃止された。

(昭和三十九年二月十二日撮影)